

良食米「はるみ」栽培を呼びかけ ～良質米生産振興研修会～

県産米の生産振興と品質向上に向けた「良質米生産振興研修会」(主催:神奈川県、JA県中央会、JA全農かながわ、神奈川県農業共済組合)が3月20日に県農業技術センターで開催され、県下9JAから生産者やJA・関係機関職員など約150人が参加した。

研修では、県農業技術センター作物加工課より、県内で栽培される主要品種「キヌヒカリ」「さとじまん」を題材に、26年産水稻の生育状況に気象が与えた影響や、病害虫の発生状況、作柄などを踏まえ、27年産栽培時の留意点などが報告された。

JAあつぎ地域農業対策課は、近年の出穂期の高温による影響を避けるため移植時期を遅らせる「平成26年産米展示圃場研究」の結果を発表した。また、JAかながわ西湘管農部指導課は、疎植栽培と通常栽培を異なる追肥条件で比較し、生育状況や収量、食味の調査結果を報告した。両展示圃とも27年度も引き続き調査する予定。



力仕事を軽減する「農業用アシストスーツ」(和歌山大学で開発中)も注目された



県の水稲奨励品種に決定した「はるみ」の特徴や栽培方法を紹介した

全農営農・技術センター開発の早生品種「はるみ」が、2月に神奈川県の水稲奨励品種に決定した事を受け、神奈川県農業技術センター普及指導部が、「はるみ」の特徴と栽培方法を紹介した。「はるみ」の栽培方法は、同じく早生品種の「キヌヒカリ」に準じている事を、神奈川県米麦改良協会が作成した「はるみ栽培暦」などを使って説明した。基肥量が多いと倒伏のリスクが高まるため、追肥など施肥管理を心がけ、「新しい県ブランド米を育てましょう」と呼びかけた。これまで「はるみ」の試験栽培に協力したJAや生産者のアンケート結果も紹介された。

今後、県内では「キヌヒカリ」から「はるみ」への切り換えが進むと予想される。学校給食用米確保運動に取り組むJAグループ神奈川では、「はるみ」を含む県産米の出荷協力を生産者へ呼びかけていく。